

絆

一杯のお茶



昔から日本では、夕食の後も家族が集い、語り合う『団欒』という時間を持っていました。子供達はその日あった楽しかったこと、

困ったことを家族に話し、家族はその話に真剣に耳を傾け『絆』を一層深めてきたのです。そしてその傍らにはいつも『一杯のお茶』がありました。

ある時はとても渋く、またある時は極上の果汁のように爽やかで甘かった。

『一杯のお茶』には、その家の『絆』がしっかりと結ばれていました。

心が迷走を続ける現代日本。

薄っぺらい清涼飲料水でお茶を濁すような背中あわせの家族関係を見直し、

家族の『絆』復活が求められる現代社会には、

家族が集い語らう『団欒』と心がこもった『お茶』が、

これからのキーワードになっていくのではないのでしょうか。

私たちの生活の中で今も生き続ける
お茶のある風景
——「絆」「和」「彩」「未来」

今も多くの人たちは、

いつものお店で買い求めてきたお茶をいつもの急須に入れ、

ポットのお湯を注いで食事やおやつの時に何気なく飲んでいます。

それはまさに生まれた頃からの『食習慣』であり、

大切なことではありますが趣味・嗜好の世界からは大きくかけ離れてしまっています。

紅茶やコーヒーを前にすると少しでも美味しく入れようと身構えたりしますが、

何故かお茶の時には、すっかり『文化』が『習慣』にすり変わってしまっているのです。

先人達が研究・改良を続け生み出してきたお茶の本当の美味しさと、更にそれを高めていくため

のお茶のゆとりある演出が『文化』としてのお茶にはあることに気付いてほしい。

より私たち現代日本の食文化を豊かにしていくためにも

お茶の本当の良さを再認識し更に『創造』することで

もっともっとお茶を魅力的で『彩り』あるものにしていきたい。

